

解答は、すべて答案用紙に記入して必ず提出してください。

1 級 - I

2026 年度 第 173 回 簿記検定試験 問題用紙

商業簿記・会計学

(午前 9 時開始 制限時間 90分)

(2026年 6 月14日(日) 施行)

日本商工会議所
各地商工会議所

受験者への注意事項

1. 答案用紙は、持ち帰りできませんので必ず提出してください。持ち帰った場合は失格となり、以後の受験をお断りする場合があります。
2. 答えは、問題文の指示に従い定められたところに、誤字・脱字のないよう、ていねいに書いてください。
3. 答案の記入にあたっては、黒鉛筆または黒シャープペンシルを使用してください。

商 業 簿 記

問題 (25点)

次の資料にもとづいて、当期 (20X4年3月31日を決算日とする1年間) のP社の連結貸借対照表および連結損益計算書を作成しなさい。

[解答上の留意事項]

- 債権債務の相殺消去に伴う貸倒引当金の調整、税金および税効果会計の処理は不要とする。
- 答案用紙に該当する金額がない項目については、() 内に0を記入すること。

[資料I] 各社財務諸表 (いずれも会計期間は20X4年3月31日を決算日とする1年間、単位: 百万円)

	P社	S1社	S2社連結		P社	S1社	S2社連結
貸借対照表							
現金及び預金	3,000	12,500	8,900	買掛金	—	29,130	19,600
売掛金	380	35,400	27,000	未払費用	—	880	150
契約資産	—	1,750	3,500	長期借入金	20,000	—	5,000
未収入金	—	15	—	関係会社長期借入金	—	45,000	—
商品	—	17,930	20,500	その他負債	11,280	31,735	14,150
建物	3,000	25,000	16,000	資本金	50,000	10,000	12,000
備品	700	950	3,000	資本準備金	15,000	10,000	3,000
土地	7,000	20,000	25,000	繰越利益剰余金	25,000	△10,500	76,000
関係会社株式	54,700	—	—	新株予約権	500	—	—
関係会社長期貸付金	45,000	—	—				
その他資産	8,000	2,700	26,000				
合計	121,780	116,245	129,900	合計	121,780	116,245	129,900
損益計算書							
売上原価	—	169,000	135,000	商品売上高	—	220,000	190,000
株式報酬費用	500	—	—	商標使用料	?	—	—
その他営業費	3,630	52,670	24,870	受取配当金	2,450	—	—
支払利息	400	1,350	175	受取利息	1,380	20	15
関係会社株式評価損	10,500	—	—	株式報酬受入益	—	500	—
事業構造改善費用	—	—	11,970				
当期純利益/損失	?	△2,500	18,000				
合計	?	220,520	190,015	合計	?	220,520	190,015

[資料II] 連結グループに関する事項

- P社はグループ全体の統括に専念する親会社であり、すべての収益は子会社との取引から生じている。
- P社は、過年度にS1社を設立し、発行株式の100%を引き受けてS1社を子会社とした。S1社に関連した連結上の処理のうち、当期の開始仕訳は次のとおりである (単位: 百万円、[資料III] から判明するものは除く)。
(借) 資 本 金 10,000 (貸) 関係会社株式 20,000
資本準備金 10,000

なお、[資料I] の関係会社株式評価損は、すべてS1社株式の減損により生じたものである。

- P社は20X2年3月31日にS2社の発行済株式総数の60%を45,000百万円で取得し、S2社を子会社とした。20X2年3月31日において、S2社個別貸借対照表上の資産・負債の簿価と時価は一致していたが、連結にあたりS2社が有する顧客との関係について顧客関連資産4,000百万円、および実施予定の事業再編等について企業結合に係る特定勘定10,000百万円を計上した (事業再編等は当期に実施済み、[資料III] 7参照)。また、資本金および資本準備金は当期末まで変動はなく、繰越利益剰余金は20X2年3月31日において55,000百万円であった。のれんは10年、顧客関連資産は8年で20X3年3月期より定額法で償却する。

4. S2社は当期に総額4,000百万円の配当金を支払った。
5. S2社は当期末にSG社の発行済株式総数の100%を取得し、SG社を子会社とした。[資料I]の「S2社連結」はS2社とSG社を連結（SG社は貸借対照表のみ）したものである。P社の連結財務諸表の作成にあたっては、いったんS2社とSG社を連結し、さらにP社、S1社および「S2社連結」を連結する二段階で行っている。
P社の連結財務諸表の作成にあたり、SG社にかかる投資と資本の相殺消去手続の修正事項はない。
6. P社には、上記の他に重要性が乏しいため連結・持分法の対象から除外した子会社がある。

[資料Ⅲ] その他の連結修正事項等

1. P社が保有する商標をS1社が営業活動に利用しており、使用料としてS1社の毎月の商品売上総額の2%をP社が翌月に受け取る契約となっている。3月分の使用料380百万円はP社において売掛金として処理し、S1社において未払費用（費用は毎月その他営業費）として処理している。また、[資料I]のS1社の商品売上高には、代理人と判定された取引について3,000百万円のみが含まれているが、商標使用料の算定にあたっては売上高を7,000百万円とみなして計算する。
2. P社は前期よりS1社に対して45,000百万円（利率年3%、利払日毎年3月末日）を貸し付けている。
3. P社は当期にS1社の従業員等に対して自社株式オプション（新株予約権）を付与している。P社では株式報酬費用を計上し、S1社では同額を給料（その他営業費）および株式報酬受入益として計上している。
4. S1社の一部の従業員はP社へ出向している。給料はいったんS1社が従業員へ支給し、同額をP社に請求している（S1社損益計算書では支給額と請求額を相殺している）。また、P社では同額を費用計上したうえで後日S1社へ支払っている。[資料I]のS1社未収入金は、3月分の出向者給料をP社へ請求したものであるが、P社では3月分について未処理であることが判明した。
5. 過年度よりS1社はS2社およびSG社より商品を仕入れており、S2社は仕入原価に每期30%の利益を付加してS1社へ販売している。S1社の商品仕入高および関連する資産・負債の残高は次のとおりである。

単位:百万円	買掛金残高		商品残高		仕入高
	前期末	当期末	前期末	当期末	当期
S2社から仕入分	5,980	5,330	4,550	3,900	43,030
SG社から仕入分	520	650	0	0	6,500

なお、当期末におけるS2社のS1社に対する売掛金は4,550百万円である。S1社の買掛金との差額780百万円は、S2社において契約資産に含まれている。

6. 当期首に、S1社はS2社に対して商品（原価50百万円、売価70百万円）を販売したが、S2社では備品（耐用年数4年、残存価額ゼロ、定額法で償却）として処理している。
7. [資料I]の事業構造改善費用は、当期にS2社が実施した事業再編等により発生したものであり、すべて当期に支出済みである。そこで、S2社を子会社化した際に認識した企業結合に係る特定勘定の全額を事業構造改善費用に充当する。

問題 (25点)

第1問

- 次のうち、連結貸借対照表のその他の包括利益累計額の区分に表示されない項目として最も適切なものを一つ選び、記号で答えなさい。
 - ア. 臨時巨額の損失
 - イ. 繰延ヘッジ損失
 - ウ. その他有価証券評価差額金
 - エ. 為替換算調整勘定
 - オ. 退職給付に係る調整累計額
- 次のうち、連結損益計算書の特別利益または特別損失の区分に表示されない項目として最も適切なものを一つ選び、記号で答えなさい。
 - ア. 減損損失
 - イ. 段階取得に係る差益
 - ウ. 取得関連費用
 - エ. 災害の発生に伴う棚卸資産評価損
 - オ. 損害補償損失引当金繰入額
- 次のうち、連結キャッシュ・フロー計算書における財務活動によるキャッシュ・フローの区分に表示されない項目として最も適切なものを一つ選び、記号で答えなさい。
 - ア. 利息の支払額
 - イ. 配当金の支払額
 - ウ. 自己株式処分による収入
 - エ. 配当金の受取額
 - オ. 連結の範囲の変更を伴わない子会社株式売却による収入
- 次のうち、連結損益計算書における販売費及び一般管理費の区分に表示されない項目として最も適切なものを一つ選び、記号で答えなさい。
 - ア. 研究開発費
 - イ. 社債発行費償却
 - ウ. のれん償却額
 - エ. 取替費
 - オ. 資産除去債務に係る利息費用
- 次のうち、連結株主資本等変動計算書に表示されない項目として最も適切なものを一つ選び、記号で答えなさい。
 - ア. 任意積立金の取崩しに伴う繰越利益剰余金増加額
 - イ. 資本金の減少に伴う資本剰余金の増加額
 - ウ. 株式の無償交付に伴う株式引受権の増加額
 - エ. 子会社の連結除外に伴う利益剰余金減少額
 - オ. ストック・オプションの非行使に伴う新株予約権の減少額

第2問

次の各文章の【ア】～【ソ】の空欄に当てはまる語句または金額を記入しなさい。なお、【?】の空欄は解答不要である。また、千円未満の端数は四捨五入し、金額は千円単位で答えなさい。

- A社は、B社の議決権株式の80%を保有し、B社を子会社としている。A社およびB社の個別財務諸表における退職給付に係る資料は、以下の通りである（金額単位：千円）。

	A社		B社	
	20X3年度	20X4年度	20X3年度	20X4年度
退職給付引当金				
退職給付債務	308,000	315,000	102,000	105,000
年金資産	△212,000	△220,000	△90,000	△82,000
未認識【ア】計算上の差異	△36,000	△32,000	—	△10,000
貸借対照表計上額	60,000	63,000	12,000	13,000
退職給付費用				
勤務費用	10,000	11,500	6,000	8,000
利息費用	9,000	9,240	3,500	3,570
期待運用収益	△6,000	△6,360	△3,150	△3,150
未認識【ア】計算上の差異費用処理額	4,000	4,000	—	—
損益計算書計上額	17,000	18,380	6,350	8,420

この結果、20X3年度末の連結貸借対照表において、退職給付に係る負債が【イ】千円計上される。また、20X4年度の連結損益計算書において退職給付費用が【ウ】千円、連結包括利益計算書においてその他の包括利益が【エ】千円計上される。

2. 連結財務諸表において、1株当たり当期純利益の計算に当たっては、【オ】株主に帰属する当期純利益を算定する。なお、【カ】株式調整後1株当たり当期純利益については、【カ】株式が存在しても【キ】化効果を有さない場合、その開示は行われぬ。

3. C社における20X5年度末および20X6年度末における一時差異の残高は、以下の通りである（金額単位：千円）。

	20X5年度末	20X6年度末
将来【ク】一時差異		
貸倒引当金損金算入限度超過額	12,000	10,000
減価償却額損金算入限度超過額	90,000	80,000
連結会社間取引に係る未実現利益	6,000	8,000
	108,000	98,000
将来【?】一時差異		
圧縮積立金	60,000	50,000
その他有価証券評価差額金	9,000	6,000
	69,000	56,000

20X5年度および20X6年度における実効税率は、いずれも35%であった。また、20X5年度末および20X6年度末において見積もられた予定実効税率は、それぞれ35%および30%であった。

連結会社間取引に生じた未実現利益に係る税効果会計の適用に当たっては、【ケ】法が適用される。20X5年度末の連結貸借対照表における繰延税金【?】は【コ】千円となり、20X6年度の連結損益計算書における法人税等調整額は【サ】千円となる。なお、繰延税金資産については、その【シ】性に問題はないものとする。

4. D社は、土地E・建物F・建物Gから成る資産グループによって事業を行っており、減損処理上のキャッシュ・フロー生成単位としている。2026年度末において、当該資産グループに減損の兆候が認められたため、減損損失の【ス】の判定を行う。なお、当該資産グループにおける主要な資産は、建物Gと判定された。

各資産の取得原価等に係る事項は、次の通りである。なお、いずれの建物についても、残存価額はゼロ、定額法によって減価償却を行う。

	取得日	取得原価	耐用年数
土地E	2020年度期首	500,000千円	—
建物F	2022年度期首	800,000千円	10年
建物G	2022年度期首	1,200,000千円	15年

当該資産グループの使用から生じるキャッシュ・フローは、2027年度末から10年間において毎年度末に150,000千円生じると見積もられた。なお、建物Fの耐用年数経過時点における処分によって生じるキャッシュ・フローはゼロ、建物Fの代替建物（2032年度期首に取得予定）の取得原価は900,000千円と見積もられた。2026年度末および2036年度末において資産グループの処分から生じるキャッシュ・フローは、それぞれ800,000千円および600,000千円と見積もられた。

2026年度末における資産グループに係る減損損失の総額は【セ】千円、減損処理後の建物Fの帳簿価額は【ソ】千円となる。なお、割引率は全期を通じて年3%とし、減損損失の配分は減損処理前の各資産の帳簿価額に基づく方法による。割引率を年3%とする現価係数および年金現価係数は、次のとおりである。

	現価係数	年金現価係数
5年	0.862609	4.579707
10年	0.744094	8.530203